

一般社団法人全国学校服連絡協議会 被災生徒支援プロジェクト

[(一社) 全国学校服連絡協議会とは]

全国学校服連絡協議会は、学校服の意義と目的を考慮し正当な学校服の製造・販売を通して、学校生活における安心・安全・環境への取り組みを重視した学校服を推進し、我が国の次代を担う青少年の健全な育成を図るため家庭教育及び学校教育との連携に努め、もって学校服の文化と価値の向上を目指し日本の教育の発展に寄与することを目的とし活動をしています。

[被災生徒支援プロジェクトとは]

本プロジェクトは、自然災害により居住する住宅が損壊するなど生活基盤に著しい被害を受け、学校服を被災で損失した被災世帯の学生生徒さんに制服を円滑に調達し無償で提供することで、被災された生徒さんの逸早い学校生活と学業の再建を支援するものです。本協議会が学校制服販売業者の代表窓口として、被災地の納入業者と学校及び行政からの情報を収集し要請に応じ協議の上、紡績・生地商社・アパレルメーカー等の協力を得て、微力ではありますが学校服の提供を通して、被災世帯及び生徒さんの一日も早い生活の再建の一助となればと考えます。

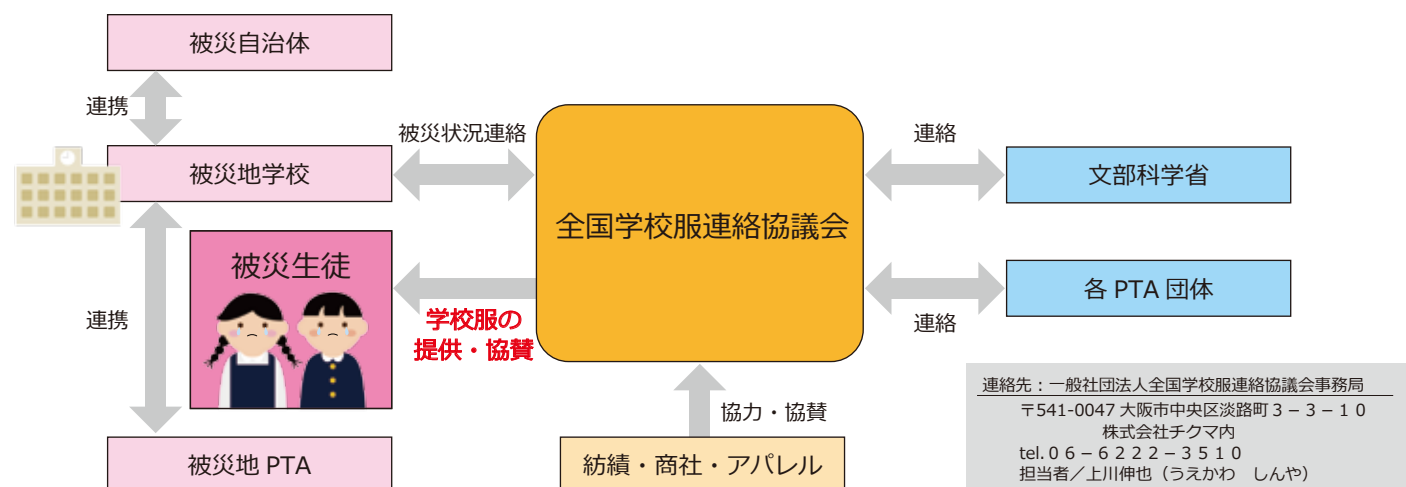
[プロジェクトの対象となる自然災害]

暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火などの自然現象によって住宅に被害があった場合を対象にしています。

[支援対象の学校服]

被災生徒の通学する正規制服（新品・リユース品）
通学適正な学校服（新品・リユース品）

[プロジェクトの流れ]



2016年におきた熊本地震では、益城町立益城中学校の被災生徒支援を行いました。

校長先生からのメッセージ

本校は、熊本県のほぼ中央に位置する緑豊かな笑顔溢れる学校でしたが、2016（平成28年）4月に起こった熊本地震により甚大な被害を受け、約1ヶ月もの間休校せざるを得ませんでした。

地震後の混乱の中、生徒たちは自身も被災者だったにもかかわらず避難所などでボランティア活動を行っていました。

地震によって大きく変化した生活の中で、生徒たちは、大変な思いをしながらも様々な経験をおしてこれまで以上に考えたり行動したりして大きく成長したと感じています。

被災した生徒達が一日も早く元の生活に戻りたいと願う中で、学校の制服は大きな力を持っていると思います。それを感じたのは、震災により学校の制服を失くした生徒に対し、PTAや卒業生からの支援を得たり、地元の制服販売店の協力を得て益城中学校の制服を渡した時の保護者や生徒のほっとした笑顔を見た時でした。大変な状況の中で、制服は日常を取り戻し前へ進む気持ちを生徒や私たちに与えてくれました。

今回、被災して初めて気づいたことですが、災害時は復旧に向けて行わなければならないことが山積し、何を誰に連絡をしたら良いのか手探りの状態で進めざるを得ませんでした。

そういう意味でも、全国学校服連絡協議会が立ち上げられた「被災生徒支援プロジェクト」が指標となり、不幸にも災害が発生した時にいち早く制服を喪失した生徒に対してケアが出来れば素晴らしいことと期待します。

益城町立益城中学校 校長 松本正文